

JSPE 教育部会主催 FY2025 第 6 回技術施設見学会(日吉台地下壕)実施報告書

2026 年 1 月 27 日

- ・見学先: 戦争遺跡日吉台地下壕
- ・場所: 神奈川県横浜市港北区日吉四町目
- ・開催者: 日吉台地下壕保存の会
- ・見学日: 令和 8 年(2026 年)1 月 24 日(土)13:30~16:00
- ・申込者: 10 名
- ・参加者: 9 名(PEN 会員 2、FE 会員 1、PE 会員 6)
- ・参加費: 1000 円(当日限定イベント保険含む、交通費は参加者負担)
- ・CPD: 2.5PDH
- ・懇親会: 見学会後、日吉駅界隈の和食屋にて実施(参加者 6 名)

第二次世界大戦の末期、戦況の悪化に伴い司令機能の保持のため、軍令部情報部が慶應義塾第一校社(日吉台)を接收しました。当時、周辺の日吉台国民学校の学童は集団疎開、塾生も学徒出陣となり、サイパン島の陥落を受け、レイテ沖海戦に備えるべく、連合艦隊司令部も慶應義塾の寄宿舍に入ってきました。日吉台が選ばれたのは、高台での通信傍受の良さ、東京や横須賀港に近い、今後の地下建設をしやすい土壌である、既設の頑丈な建物を利用できる、など、いくつもの優位性があったことによります。



第一校舎 (現高等学校)



連合艦隊司令部の入った三棟の寄宿舍

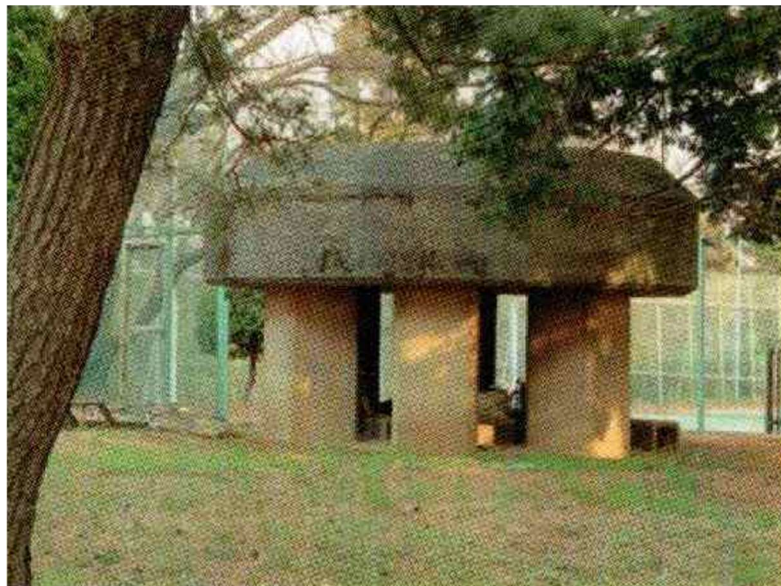


軍令部第三部が使っていたチャペル

前頁第一校舎の壁には慶應義塾のペンの校章が掲げられており、校章の左側には西暦の 1934 そして右側には皇紀の 2594 の数字が刻まれています。これはこの頑丈な白亜の校舎が出来た年を表しているのですが、その 10 年後に海軍に接收されるとは当時、誰も予想はしていなかったことでしょう。

また、前頁三棟の中央の寄宿舍、中寮には、作戦室と幕僚事務室が置かれ、レイテ沖海戦、硫黄島戦、戦艦大和出撃、沖縄戦などの作戦司令が、この中寮作戦室で練られたこととなります。

三棟の寄宿舍のほど近くには慶應義塾キリスト教青年会によるチャペル(教会堂)が 1937 年に立てられました。これも軍令部情報部に使用されていたそうです(現在、改修工事中)。



耐弾式堅坑上部

それでは日吉台地下壕の中に潜入していきます。左上写真が地下壕出入口となります。先の第一校舎と慶応高校グラウンドの間を通った山裾にあります。また出入口から 100m ほど三棟寄宿舍方向に行った先には茸型構造物(耐弾式堅坑)があり、地下壕と繋がっています。この下に延べ 2600m に及ぶ地下大要塞があることに、米軍も驚いたそうです。以下、見学した順に撮影した写真を掲示します。



換気窓跡



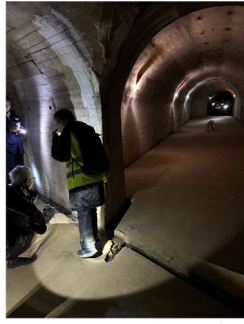
堅穴空気坑正面



堅穴空気坑側面



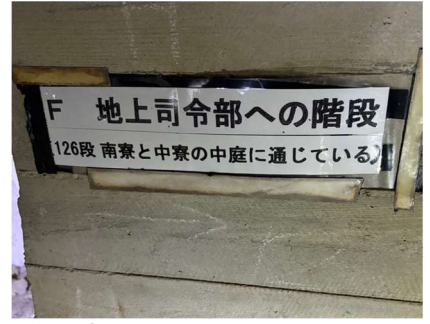
上半円下方形欧風窓型隧道



地下作戦室通路



地上司令部(三棟寄宿舍)に通じる階段入口



F 地上司令部への階段

126段 南寮と中寮の中庭に通じている



上半円下方形西欧風窓型空間



日吉台地下壕配置図

日吉台地下壕図(今回見学は①Aと②)

今回の見学会には、JSPE9名その他、一般参加者も多数参加しており、総勢40数名が6班に分かれて、それぞれ保存の会のガイドからの説明を受けながら、当時の戦況、地下壕建設の経緯、そして司令発出後に特攻隊員から届く最後のモールス信号など、戦争の悲惨さを目の当たりに聞くことができました。参加したJSPE会員からも、戦争は始めるのは簡単だが終わらせるのは難しい、どこかウクライナ戦争に通じる歴史を学べたという感想が寄せられました。

2時間半の見学が終了後、日吉駅の集合場所(銀玉;銀色の球体オブジェ)前で記念の集合写真を撮り、その後、有志6名にて懇親会へと雪崩れ込みました。



日吉駅銀玉前で集合写真撮影後→



→寿司海鮮居酒屋杉玉にて懇親会



集合写真には、大阪からの参加者1名が次の用件のため一足先に出発され撮影者(山村)同様、写っておりませんが、皆さまお疲れ様でした。今回、懇親会の撮影を失念したため、お店の写真を使っています。悪しからずご容赦ください。最後は銀玉、杉玉と玉続きで、良い一年になりますように。—以上です—

文責: 山村 佳輝
(JSPE 教育部会)